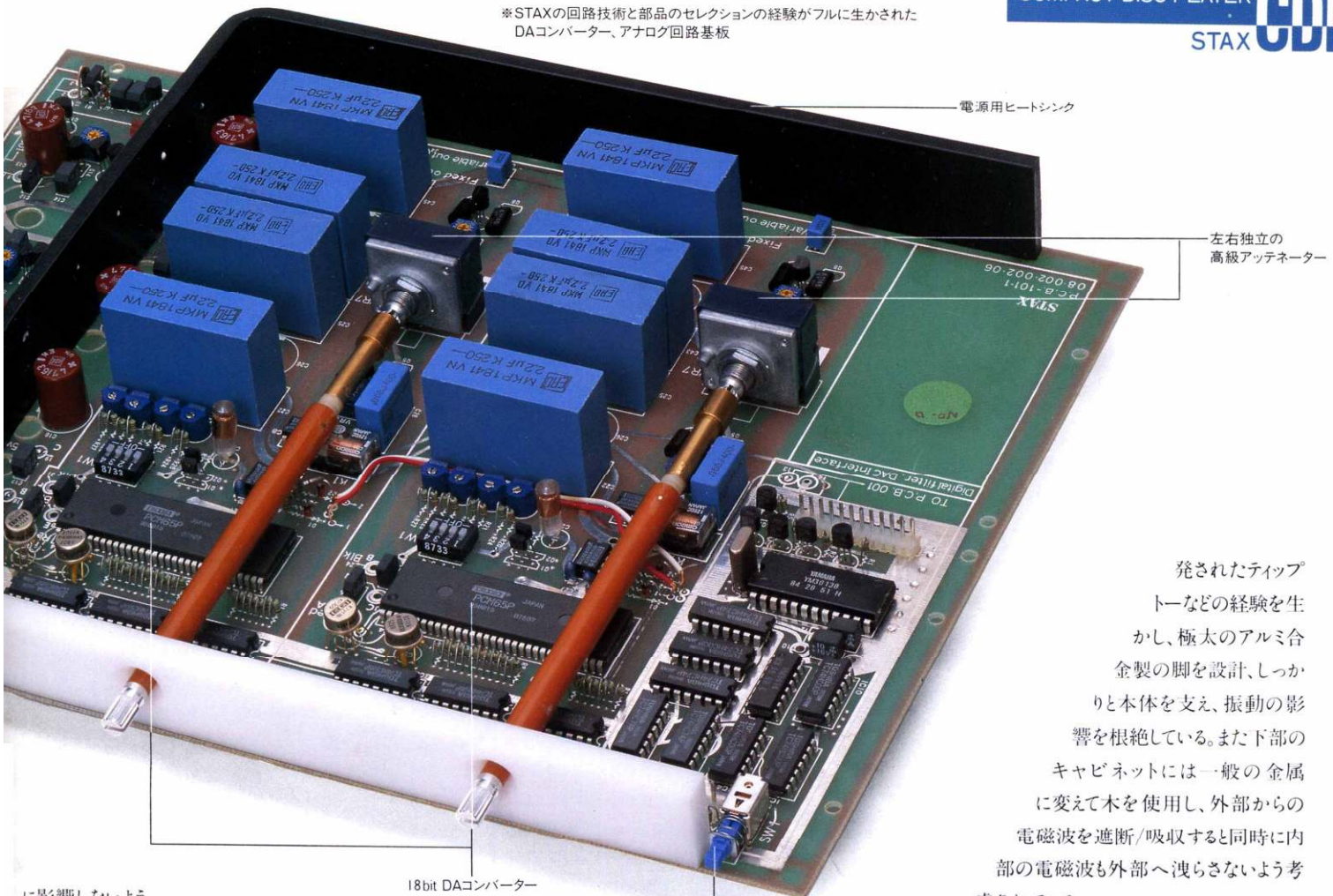


※STAXの回路技術と部品のセレクトの経験がフルに生かされた  
DAコンバーター、アナログ回路基板



発されたティップ  
トーなどの経験を生  
かし、極太のアルミ合  
金製の脚を設計、しっか  
りと本体を支え、振動の影  
響を根絶している。また下部の  
キャビネットには一般の金属  
に変えて木を使用し、外部からの  
電磁波を遮断/吸収すると同時に内  
部の電磁波も外部へ洩らさないよう考  
慮されている。

**アナログフィルター・レスのFIXED OUTと  
VARIABLE OUT。**

アナログフィルターの音への影響については前に述べたが、スタックスでは8倍オーバーサンプリング技術によって、このアナログフィルターを取り除くことに成功。今回の“QUATTRO II”では前回のダイレクトOUTと同じFIXED OUTとさらにアッテネーターを持たないパワーアンプにも直接つなげるVARIABLE OUTを装備。こちらは出力インピーダンスを100Ωと低目に設定し、ケーブルを多少長く引っ張っても大丈夫なように設計されている。一般のVARIABLE OUTと異なり、左右独立の高級アッテネーターを採用し、音質面での考慮も万全である。

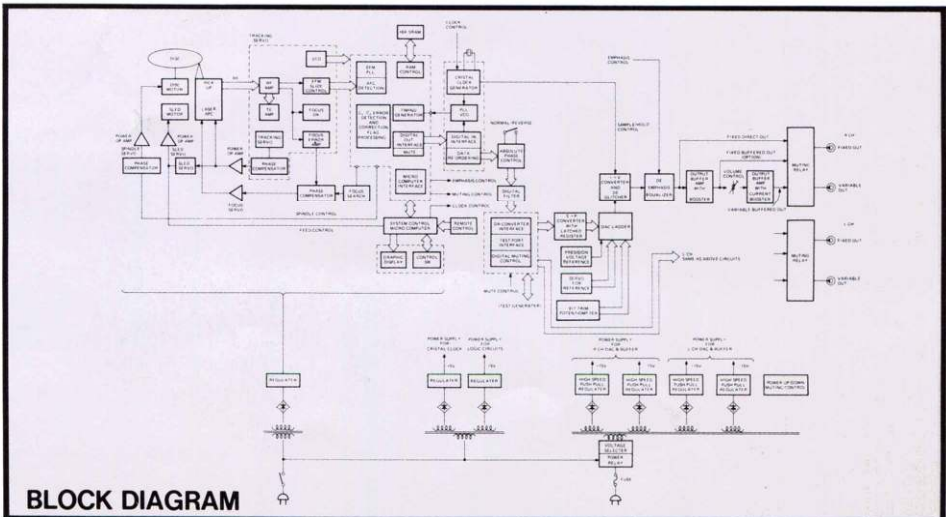
に影響しないよう、  
十分検討されている。またこの  
水晶も今話題のジッター(時間軸のゆらぎ)  
を防ぐためDAコンバーターの近くに設け、これを使  
ってメカニズム部分をコントロールするという一体  
型ならではの方法でジッターを激減させている。高  
周波ノイズの発生源には高性能の積層コンデン  
サーを配し、デジタル関係のICの近くには必要  
に応じてシールド板を、また電源部には良質な電  
解コンデンサーにさらにオーディオ用に開発された  
ドイツ製フィルムコンデンサーをパラレルに入れる  
など、ノイズのみならずデジタル信号のクリーン化  
に十分な対策をほどこしている。

**抵抗の音質への影響**

アンプ回路には抵抗がつきもので、この抵抗が音  
を大きく左右することは、多少オーディオ回路をいじ  
った方なら、よくご存知のことと思う。スタックスでも  
抵抗の音への影響をかなり前から研究し、スタッ  
ックスのポリシーとして出来るだけ磁性体を含まない  
組成のはっきりした抵抗体を研究してきた。そこで  
温度特性や経時変化の少ない抵抗材料としてタ  
ンタル金属に目をつけ、さらに余計な部分を取去  
ったキャップレス型をスタックスオリジナルのアイ  
ディアを加えて、特別製作してもらった。こうしてつく  
られた抵抗を使用することにより優れた回路技術は  
フルにその真価を発揮できるわけである。

**最上の音質をめざして  
デジタル部とアナログ部の分離——  
それはACコードまで及ぶ。**

本体のメカニ  
ズム部と下部のDAコンバ  
ーター/アナログ部の分離はアナログ信  
号へのデジタルノイズの混入を極限まで減らした  
いからに他ならないが、そのために採用された2階  
建て構造をもったユニークな外観で特に目立つ  
のは、アルミ合金でつくられた4本の太い脚であろ  
う。外部からの振動はアナログプレーヤーと全く同  
じではないにしても音を汚すノイズの原因になっ  
ており、またメカニズム部の発する振動もアナログ部  
へ影響を与える可能性を持っている。そこでスタッ  
ックスではアナログプレーヤーや振動遮断用に開



**BLOCK DIAGRAM**